県内総合

建設情報 Iwate

ニュースのお知らせは
〒020-0015 盛岡市本町通3-9-33
本社編集部へ
TEL (019) 623-8201
FAX (019) 623-8204

基本設計後の中山の園を事前評価

県大規模事業評価専門委 増額した総事業費など審議

2026年度第４回県大規模事業評価専門委員会（委員長・山本英和岩手大学理工学部准教授）は19日、盛岡市内で開かれ、基本設計がまとまった「中山の園整備事業」の事前評価を審議。大幅に増額した総事業費などについて意見を交わした。来年１月に予定されている委員会で、答申案の検討を行う見通し。きょう25日から12月24日で実施されるパブリックコメントについても、委員会で結果を報告する予定としている。

一戸町中山字軽井沢139―１にある中山の園は、県が1979年に知的障がい者の総合援護施設として設置。利用者の高齢化や障がいの重度化が進み、身体的介護や医療的ケアのニーズが高まっているほか、開設から40年以上が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいることから、利用者の状態に応じた適切な支援体制や安全性等を確保するため、全面的に改築整備を行う。

新しい施設は、現在地に整備するほか、県立一戸病院建物内（一戸町）と、みたけの杜隣接地（滝沢市）に施設の一部を移転整備する。

全体計画を見ると、現在地での施設整備は、延べ床面積１万2655・３平方㍍で、鉄筋コンクリート造平屋建ての新築と大規模改修での対応となる。定員は120人で、地域移行を目指す人、若年の重度障がい者、強度行動障がいを有する人などが主な対象。住み慣れた施設であることや、日中活動支援や地域交流が充実しているなどの利点がある。

一戸病院建物内は大規模改修で対応する。施設の延べ床面積は1437・３平方㍍で、定員は30人。主な対象者は高齢障がい者等で、医療機関との連携強化、救急措置の迅速化、通院負担の減などのメリットがある。

みたけの杜隣接地では、滝沢市穴口に鉄筋コンクリート造平屋建てで、床面積2209・１平方㍍の施設を新築する。定員は40人で、高齢障がい者等を主な対象とする。救急措置の迅速化や、通院・入院可能な病院が複数ある家族との交流促進などの効果が期待される。

総事業費は139億1900万円で、基本構想後段階の76億8000万円から大幅に増額した。内訳は、本体工事費が131億1800万円、設計・地質調査が３億9600万円、工事監理などが４億500万円となっている。

事業期間は25から30年度まで。今後のスケジュールを見ると、26年度に実施設計を行い、27年度以降で施工業者を選定し、建設工事に着手。順次、供用を開始していく計画だ。

同事業の事前評価（基本設計後）を諮問した19日の専門委員会では、委員が総事業費の増額の要因を質問。県側は「当初の76億円は、既存の『みたけの森』や『てしろもりの丘』の施設の単価を基に、単純計算したもの。今回、具体的な設計内容が決まったことで詳細な精査をした結果、この金額になった」と回答した。

来年１月に計画する委員会で、ランニングコストを踏まえた事業の有効性や、太陽光パネルの設置の可能性などについて補足説明を行う予定。答申案も検討する見通しだ。

かねまつ・菊池ＪＶが落札

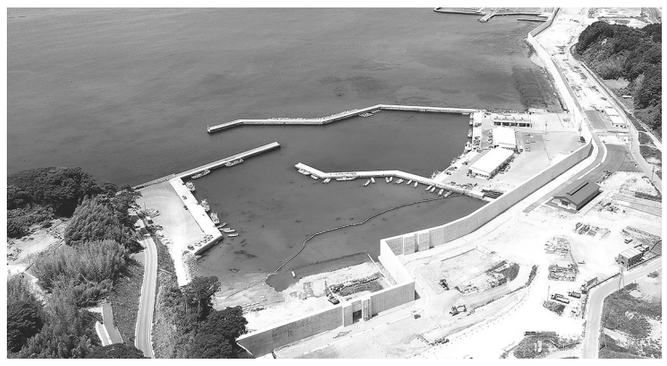
脇之沢漁港 脇の沢整備 27年度も護岸工など計画

陸前高田市

陸前高田市は、脇之沢漁港の基盤整備事業を展開している。これまで同漁港の沼田地区で、防砂堤や突堤の整備を進めてきたが、26年度からは同漁港の脇の沢地区で工事に入っていく。20日には、条件付一般競争により「脇之沢漁港（脇の沢地区）整備工事」を３者で入札し、かねまつ建設・菊池組ＪＶが１億2000万円で落札した。工期は2027年３月５日まで。脇の沢地区では、27年度以降も護岸や、物揚場の背面盛土の工事などを計画している。

同漁港の脇の沢地区は、同市米崎町字脇の沢地先に位置している。

今回入札した工事では、マイナス２㍍物揚場として計画する延長81㍍中の75.5㍍部分と、海水井戸１基、浚渫工事650平方㍍の整備を実施する。


脇之沢漁港の脇の沢地区

市では脇の沢地区について、27年度でマイナス２㍍物揚場で残る5.5㍍部分と、同物揚場の背面盛土１万6000立方㍍、さらに用地護岸15.8㍍、道路護岸で43.4㍍と72㍍の２本の工事を計画。28年度は、背面盛土と道路部分の舗装工事を見込んでいる。

設計は、センク21が担当した。

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



2025年から2026年の青森県岩手県沖の一連の地震活動 ―1994年三陸はるか沖地震との関係―

岩手大学理工学部理工学科　社会基盤・環境工学コース准教授　山本　英和

2025年の年末は、11月９日に岩手県沖でマグニチュード（M）6.9の地震が発生したのを皮切りに、12月８日には青森県東方沖でM7.6の地震が発生し、青森県を中心に多くの被害が出ました。青森県八戸市では、ＮＴＴ青森八戸ビルの鉄塔が地震により損壊して倒壊の恐れが生じたため、周辺世帯（最大48世帯）に一時避難指示が発令されました。また、青森県や北海道で住家の全壊１棟、一部破損47棟が確認されたほか、青森県内の詳細調査では、外壁・内壁のひび割れや外構破損など、住家786件・非住家2481件の建築物被害が報告されています（土木学会、令和８年２月20日時点）。ライフラインにも大きな影響が出ており、北海道電力および東北電力の管内で地震直後に最大約4370戸の停電が発生しました。さらに、水道管の破裂が各地で相次ぎ、青森県（八戸市、七戸町、階上町など）や岩手県（久慈市、軽米町、一戸町など）で最大約1595戸の断水が発生したほか（消防庁）、八戸市内では水道管破裂による道路冠水も起きました。

また、この地震に伴い、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が初めて発表されました。これは、日本海溝・千島海溝沿いでマグニチュード７以上の大きな地震が起きたあと、「その影響で、さらに規模の大きな巨大地震が続けて起きる可能性が普段より高まっています」とお知らせし、注意を促す防災情報です。地震が必ず起きるという予知ではありませんが、発表から１週間ほどは特別な備えが必要となります。北海道から千葉県の沿岸部を中心に、普段通りの生活を送りながら、家具の固定や避難場所の再確認など、揺れや津波にすぐ対応できる準備を呼びかけるものです。

さらに、翌2026年４月20日には三陸沖でM7.5の地震が発生しました。地震の規模に対して震源が沖合（陸地から約100km）だったため、2025年12月の地震と比べると建物倒壊などの甚大な被害は抑えられましたが、津波警報が発表され、広範囲で避難や交通への影響が出ました。前年12月の青森県東方沖の地震に続いて２回目の「北海道・三陸沖後発地震注意情報」も発表され、住民は改めて大地震への危機感を強めました。

続いて６月25日には、岩手県沖でM6.9の地震が発生しました。朝７時30分という通勤・通学時間帯と重なったため、人の移動や交通機関、建物への影響が目立ちました。４月20日の地震よりも規模は小さかったものの、震源が陸地に近い岩手県沖の深さ約44～45km（プレート境界型）だったため、強い地震波が直接陸地に伝わりました。岩手県九戸村の観測点では1225ガルという大きな加速度を記録し、青森県階上町で震度６強、八戸市で震度６弱、盛岡市や二戸市、久慈市など岩手県内の広範囲でも震度５強～５弱を観測しました。

表　青森県、岩手県沖の最近の地震（気象庁による）

日時	震央緯度	震央経度	震源深さ	マグニチュード	場所
2025/11/9 17:54	39° 27.1'	143° 24.0'	14	6.6	三陸沖
2025/12/8 23:15	40° 58.0'	142° 17.2'	54	7.5	青森県東方沖
2026/4/20 16:52	39° 50.5'	143° 9.4'	19	7.7	三陸沖
2026/6/25 7:30	40° 12.6'	142° 18.2'	44	7.2	岩手県沖

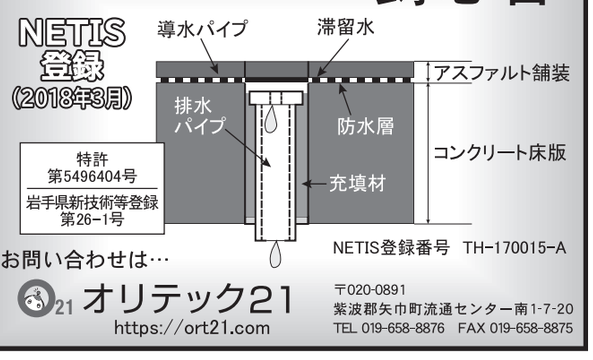
６月25日の岩手県沖地震の震央と震源の深さは、1995年１月７日に発生したM7.2の「平成６年（1994年）三陸はるか沖地震」の最大余震とほぼ同じ位置にあたります。地震本部による海溝型地震の長期評価によると、青森県東方沖および岩手県沖北部では、M7.9程度の地震の30年以内の発生確率が20%～40%、ひとまわり小さいM7.0～7.5のプレート間地震の10年以内の発生確率が70%と高い数値で予測されており、いずれも「Ⅲランク」に位置づけられています。ここは全国の中でも海溝型地震の発生確率が最も高い地域です。

1994年～1995年のケースでは、まず1994年12月28日に三陸沖で本震（M7.6）が起き、その約10日後の1995年１月７日に、より陸地に近い岩手県沖で最大余震（M7.2）が発生しました。2026年の場合も、４月20日に沖合でM7.5の地震が起きたあと、その震源域の西側（陸寄り）で余効すべりが進行し、約２カ月後の６月25日にM6.9の地震が誘発されるという、プレート境界の応力変化による類似した連鎖パターンをたどっています。一方で、1994年の三陸はるか沖地震の本震震源域の周辺では、まだ同規模の地震が発生していない状況で注意が必要と考えられます。

参考：1994年の三陸はるか沖地震について（気象庁による）

1994年12月28日21時19分、八戸市東方約180kmの三陸沖を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、気象庁により「平成６年（1994年）三陸はるか沖地震」と命名されました。この地震では青森県八戸市で最大震度６（当時の震度階級：現在の震度６弱～６強相当）、岩手県・青森県で震度５を観測したほか、北海道から中部地方にかけて広い範囲で揺れを観測しました。断層が地下の深い場所で大きくずれた一方、津波の要因となる浅い海底付近でのずれが小さかったため、北海道から関東地方の太平洋沿岸で最大50cmの津波を観測したものの、幸い津波による被害はありませんでした。しかし、強い揺れにより全体で死者３名、負傷者788名、住家の全壊72棟・半壊429棟の建物被害やインフラの損壊など甚大な被害が発生しました。特に震度６を観測した八戸市（死者２名、負傷者720名、全壊61棟など）の市内中心部に被害が集中しましたが、発生時刻が夕食の時間帯を外れていたため火災は８件にとどまりました。また、10日後の1995年１月７日にはM7.2の最大余震が発生するなど、翌年５月末まで活発な余震活動が続きました。

※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。

橋梁用排水パイプは 鋳心管（いしんかん）
NETIS登録（2018年3月）


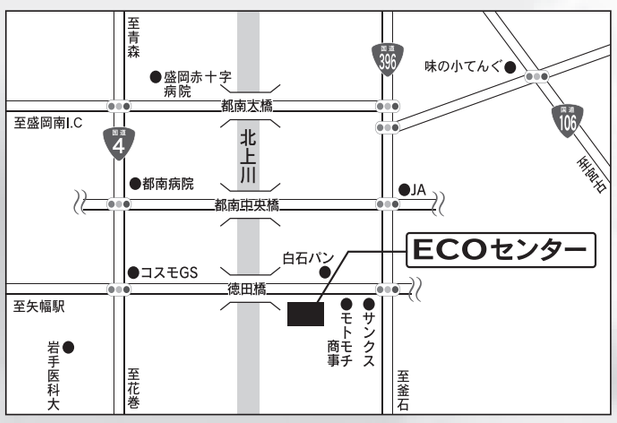
お問い合わせは…
21 オリテック21
https://ort21.com
〒020-0891 紫波郡矢巾町流通センター南1-7-20
TEL 019-658-8876　FAX 019-658-8875

弊社にて生産、製造しているので メンテナンスは安心
（ISO 9001 取得済み）

（一社）日本公園施設業協会会員
設計・製作・施工・保守管理
鉄製・木製・擬木・遊戯施設
園路広場・修景・運動・休養・便益・管理施設
体育館・トレーニング・屋外器具
黒板・掲示板・看板
有限会社サンブリッチ東北
本社・工場／岩手県北上市藤沢7地割195番地1
TEL 0197-68-3860　FAX 0197-68-3865

令和７年度 優良下請負企業表彰 受賞
耐震補強工事
ガス圧接　高分子天然ガス圧接　フレア溶接　エンクローズ溶接
あと施行アンカー　鉄筋レーダー探査(非破壊検査)
ケミカルアンカー(アンカー引張試験、アンカー超音波検査)
鉄筋加工組立　橋梁補修工事　サンドブラスト(付着試験)
クラック注入　エポキシ注入　グラウト注入　ダイアモンドコア
日本建築あと施工アンカー協会／日本鉄筋継手協会／日本溶接協会　会員
IKK 株式会社 一騎工業
本　社／岩手県奥州市江刺稲瀬字三丁198
TEL 0197-35-6045　FAX 0197-35-6046
営業所／盛岡・秋田・仙台・山形・北上工場

株式会社 佐藤興産
ECOセンター
産業廃棄物の見積・契約・搬入予約等
産業廃棄物に関するご相談はこちらまで
環境部フリーダイヤル 0120-310-202
リサイクル処理品目
石膏ボード、木材、プラスチック、畳、ガラス陶磁器くず、
コンクリート、繊維くず、アスファルト、鉄くず、紙くず、伐根材等
〒020-0403　岩手県盛岡市乙部5-320-1
TEL：019-656-1188／FAX：019-656-1189

自然に優しい環境づくりを思考する
SATO KOUSAN


URL：www.sato-im.com

（一社）日本塗装工業組合会員　岩手県塗装工業組合会員
建築・橋梁塗装・各種吹付・各種防水工事・樹脂注入
各種塗装工事／各種防水工事／断熱工事 請負
●金属焼付塗装全般　●木工塗装　●ＦＲＰ塗装
取扱商品
特殊セラミック塗材　ガイナ塗膜（㈱日進産業）
●省エネ効果…断熱・遮熱・耐久
●快適空間…防音・防露・消臭・透湿・防菌・防護・安全・癒し
●機能性…防汚・弾性・不燃・簡単施工
環境対応型光触媒塗料　エヌティオ（日本特殊塗料㈱）
有限会社 吉田塗装工業
盛岡市川目町23番5号（盛岡市中央工業団地）
☎019−624−4390(代表) FAX019−654−5398
E-mail y-paint@ia8.itkeeper.ne.jp